

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスを提供していくことを法人の理念として掲げ、皆で話し合ったグループホームの理念と共に職員や外部の方から目につく所に掲示している。法人理念：三つの和をもって、地域の輪となる(三つの輪とは平和、親和、調和)。グループホーム理念：自分らしく、居心地のよい、安心できるグループホーム。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を職員休憩室にも掲示している。職員会議等で定期的に話し合い、サービス計画書や日常のケアに反映させていこうと日々確認しあい提供している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>プライベートに配慮しながら、運営推進会議、事業所や自治会の行事参加の場面を活用して理念への理解や情報交換を行っている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>散歩中のコミュニケーションや自治会の行事に参加、ボランティアサークルやホーム見学の受け入れ、地域からの職員採用、デイサービス利用者との交流を図っている。地域の高齢者の暮らしに役立つ一環として、自治会の廃品回収、リサイクル分別回収、環境整備として道路脇への花植えに参加している。キャラバンメイトの活動はまだ行っていない。</p>	<p>キャラバンメイトを含め地域の高齢者の暮らしにもっと役立つことはないかを検討し充実させたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設時からいる職員が殆んどで、必要最小限に異動は行い、引継ぎも確実にしている。異動:2名。離職者:3名。</p>		
<p><b>5.人材の育成と支援</b></p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回のグループホームや法人の研修開催、年2回の親睦会開催時に行う研修、適宜に法人外の研修に参加させている。研修資料を申し送りの時間に、1ページに付き1週間の期間を設けて再度読み上げている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修でネットワーク作りを行い、プライベートに配慮しながら、情報交換や訪問の機会を作っている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月1回のグループホームの勉強会や職員会議、親睦会の行事(お花見・忘年会・歓送迎会)、毎日の申し送り時等の機会を利用し、悩みやストレスを引き出す工夫やアドバイスやスーパーバイザーを行っている。親睦会の行事:お花見、忘年会、歓送迎会での席を設けている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月1回の勉強会の内容の充実(職員が課題をみつけ段取りを行う)、気付きを反映させるケアの組み立てやアイデアを広く吸い上げたり、負担になってないか等の配慮を行っている。勉強会:法人グループホーム3事業所合同、法人全体の勉強会を実施している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御本人や御家族の気持ちを大切に、状況に応じて入居者の代弁者となり信頼関係を築きあげるように対応している。面会の際の交流で、御本人を通して家族関係の修復ができたケースがある(入居した理由での誤解)。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族の気持ち、家族の本音を大切に信頼関係を築き、家族を含めた本人中心のケアを提供し、家族関係の修復にも配慮している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に面会に来て頂けるような体制、雰囲気づくり、連絡や、馴染みの場所での買い物や整髪等を個別に提供している。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しないように職員が見守りを行い、孤立しないように支援している。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も御家族や御本人の相談に応じ対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者からは日常の会話や施設サービス計画書作成前、御家族からは、面会時や施設サービス計画書作成前に思いを伺い希望用紙に記入して頂き意向を確認している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居相談時点より、御本人や御家族、担当ケアマネージャ、ソーシャルワーカー、Dr等関係者からお話を聞き個々に対応している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1日2回の申し送り、月1回のカンファレンス、職員会議、施設サービス計画書の見直しの時期、状態の変化がみられた時等以外にも、現状を御本人や職員と話し合いながら全員が把握するようにしている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>御本人、御家族から希望用紙に記入して頂いたり、話し合いしたりした事を職員全員で検討して介護計画書を作成している。又、職員が把握できる様に、原本は個人ファイル、コピーしたものを業務日誌に保存している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1度見直しを行い、変化がみられた時は都度、御本人、御家族、職員等と話し合い状態に応じたサービス計画書を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35</p> <p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日中、夜間の生活の様子や特変時のケース記録への記入、申し送り、月1回のカンファレンス等で情報を共有してケアやサービス計画書の見直しに反映させている。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36</p> <p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ADLの向上にてケアハウスへの入居、長期入院後の受け入れとして特別養護老人ホームへの入所を御本人や御家族の要望に応じて支援している。デイサービスが併設となっており、合同でのまつりや行事の参加(餅つき、慰問)をしたり、場所の利用、又、御家族の相談等併設の居宅支援事業所とも連携している。</p>		
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37</p> <p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>必要性に応じて幅広く協力して頂いている。民生委員：運営推進会議、慰問、夏祭り、避難訓練、町内の祭りや奉仕活動。ボランティア：慰問、消防：避難訓練。文化・教育：慰問や夏祭り参加、チャリティ発表会(日本舞踊等)招待等地域資源を活用している。</p>		
<p>38</p> <p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>本人の意向や必要に応じて、地域、ケアマネジャー、事業者と連絡し支援している。入居者それぞれに主治医があり、受診している。家族同行で受診される方もいらっしゃる。</p>		
<p>39</p> <p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>毎月1回は担当者と話をする機会をつくっている。現在のところ御要望がないが必要性に応じて随時報告や相談を行える体制は整えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医は弘前小野病院となっている。御本人や御家族の希望を大切に選択している。現在入居前からのかかりつけ医を受診している方もいらっしゃる。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホーム協力医の弘前小野病院には専門医があり、藤代健生病院を受診している方もいらっしゃる。随時相談や受診できる体制は整っている。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が配置されており、日中、夜間問わず相談や対応がとれる体制を整えている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は、主治医、御本人、御家族、当ホーム看護職員と話し合いの場をつくり情報交換や相談に応じており連携体制を整えている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に同意書にて体制を説明し同意を交わし方針を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同意書にてチームワークの体制づくりや当ホームが「できること・できないこと」等とグループホーム・医療機関・御家族の役割を明確にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居前、入居時の情報を(生活面・医療面等)御本人や御家族の承諾を得て情報提供している。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入室する時はノックして入る、名前を呼ぶ時は苗字で呼ぶ、言葉かけや対応にも人生の先輩として敬意を表して、自尊心を気付けないように対応している。ホーム内外での個人情報の取り扱いにも職員全員で注意するようにしている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言葉や思いを引き出すように会話をしたり、必要に応じて筆記の手法を取り入れたり、表情からも何うように配慮している。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>御本人、御家族からの希望にそい、ひとりひとりに合わせた暮らしができるように支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>御家族や職員と共に、行きつけの理美容院を利用したり、出張サービスをりようしている。パーマや毛染め等をしておしゃれをしているように思える。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できること、できないこと(好きなこと、嫌いなこと)を職員が把握しており、入居者と一緒に行っている。		
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、喫煙される方が2名。飲み物やおやつ等の管理が出来ない方には職員の管理のもと、安全に日常的に楽しめる様にしている。		
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状態を記入する様式で排泄感覚、パターンを観察し、トイレ誘導、排泄用具の使い分け(日中・夜間)をしたりと、状況や個人に応じて気持ちよく排泄できるよう支援しており、改善された方もいらっしゃる。		
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉となっており、庭木もあり開放的でくつろげる環境を整えている。毎日入浴できる体制を整えており、個人の希望やタイミングに合わせて入浴できるように支援している。現在、毎日入浴されている方がいらっしゃる。		
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣、状況に応じて安心して休息したり、眠れるように支援している。入居者の睡眠時間や日中の活動も観察し、睡眠障害がある方には、まず日中の活動を工夫して改善された方、入眠剤を飲まずに生活できる方もいらっしゃる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように。一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。漬物や煮豆づくり、大工、野菜作り、草取り、ケーキの作り、裁縫、来客時のお茶だし、行事の時の御挨拶やタイトル書き等。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御家族や御本人の同意のもと、一人ひとりの希望や力に応じて、所持したり使えるように支援している。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩、畑作業、買い物、整髪、地域や同法人の行事等の外出を支援している。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>御意見を聞き行事の中に取り入れたり、御家族の協力を得て機会をつくっている。行事：一代様巡り、選挙演説、弘前よさこいソーラン、思い出作り交流会として岩木ANKKOでの食事・買い物・三味線演奏鑑賞、みずやクレソン採り。御家族：お墓やお寺</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙に関してはその方の力に応じて支援している。電話：電話番号を忘れた時や知りたい番号がある時は調べてメモ紙に書いたり、電話の使い方がわからない方にはつながるところまでお手伝いする等。手紙：代筆、葉書きの準備、投函等。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>御家族や知人の、退居された方の訪問も多く、自由にホールや居室で過ごせるように支援している。又、御家族には宿泊できるように寝具を用意したり食事を一緒に食べられるようにも支援している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束のないケアについて認識しており、拘束のないケアを行っている。高齢者の虐待防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律、身体拘束に禁止の対象となる具体的な行為、身体拘束をせずに行うケア・三つの原則の資料もいつでも閲覧できるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上鍵をかけているが、日中は鍵を掛けておらず出入りも自由になっている。		
64 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在の確認を、6時30分・10時・15時・22時・1時・4時に行い業務日誌に記入する欄を設けており、上記時間以外にも見守りをプライバシーに配慮しながら行っている。外に出た方には特に注意をはらっている。見守りは相手に監視されていると思われぬようにさり気なく行うようになっている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いの注意が必要な物品に関しては、扉のついている棚や手の届かない棚を利用し保管場所や保管方法の取り決めを行っている。取り扱いの注意が必要な物品：包丁、カミソリ、エタノール、塩化ベンザル、イソジン、洗剤、キッチンハイター		
66 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリーハット、インシデント、アクシデントの報告書にて報告をしあい、都度再防止策について話し合いを行いサービス計画書にも反映させている。転倒対策：見守り、介助、状態に応じた歩行訓練、環境整備。無断外出対策：見守り、気分を変える。誤薬対策：調剤時、氏名・日付け・服薬時間を印字して頂き、服薬時には再度確認して手渡す。等状態に応じて検討している。		
67 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の研修受講、緊急時対応のマニュアルと道具を準備しており、いつでもシミュレーションするように伝えている。看護師指導のもと実習を行っている。		
68 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練(日中・夜間)を年2回行っており、都度、消防士の方や防災管理担当者の方からのアドバイスを頂き報告書に綴っている。報告書は職員が閲覧できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、職員の手洗い、うがいを実施しており、手指消毒液を置く等感染予防に努めている。流行している時期には面会者の方にも御協力を得ている。感染対策マニュアルを準備しており、法人や看護師から指導を受けている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンハイター消毒を毎日行いしっかり乾燥させ管理している。毎日消毒:包丁、まな板、布巾、ゴミ箱、三角コーナ、棚、台所周り、ガスコンロ、食器カゴ。定期消毒:冷蔵庫、ザル、ボール。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	威圧感や違和感を感じさせないよう、明るく清潔で家庭的な雰囲気づくりをし、気軽に訪問しやすい環境に配慮している。玄関先に植物や椅子をおき風景や植物を楽しめる様にセッティングし、下駄箱の上には植物や入居者の方の手作りの作品、絵画を飾っている。コルクボードには生活している場面の写真や広報誌を掲示している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気に配慮して心地よく暮らせるような空間に配慮している。音:ホールのテレビの音量は近くの居室で生活している方に気配りをしている(特に昼寝や就寝時間帯)。職員の会話、居室ドアや冷蔵庫の閉める音、食器の音。光:日差し強さはカーテンで調整し入居者の方もお手伝いして下さる。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような居場所を入居者の方の要望を聞きながら、各場所ごとに工夫している。ホールにはテーブル以外にも長いすを配置しテレビ近くに座れる工夫をしている。畳みスペースには座椅子や座布団を準備し、廊下やバルコニーには長いすを配置し景色を眺めながら語り合いできる様に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>安心して居心地よく生活できるように、御家族にも御協力頂いている。茶ダンス、ダンス、テレビ、ラジオ、椅子、寝具、ベット、コタツ掛け布団等生活用品や装飾品、御家族の写真等馴染みの物が持ち込まれている。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>10時、21時と室温と湿度を業務日誌に記録して温度管理を行っている。日の傾きで温度が違ったり、体温調節ができない入居者には特に気配りを行っている。ホール、居室には空気洗浄機や外気の取り入れの装置を設備。適宜窓を開けて換気や室温の気配りを行っている。温度調整は、各室サーモで調整。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>生活リハビリを前提に、安心・安全をもとに、一人ひとりにあった自立支援にむけた工夫をしている。玄関、廊下、ホール、和室の上がり場、トイレ、浴室に手すりを設置。シャワー椅子も滑り止めや安定して移乗できるようにデザインされている物を使用。浴槽はスロープにしている箇所もある。物干し竿も折りたたみ式で運びやすく、干しやすいものを使用。床はカーペットを使用しバリアフリーになっている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>残存機能・自立支援を大切にして、御本人の出来ること、できないことを職員が把握し笑顔や達成感がある場面を職員で話し合い一緒に感動したり感謝の言葉を表して共有している。「出来ること」「できないこと」「好きなこと」「嫌いなこと」を職員が把握する。さり気なくお手伝いして自分で出来たと思える場面を提供す。ストレスを感じてないか。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>行事や入居者の思いに応じて、安全に過ごせるように見守りながら建物を活用している。屋内：食堂、廊下、浴室、和室、台所。屋外：玄関先、バルコニー、ベランダ、中庭、併設デイサービス。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・開かれた施設 地域の方との交流

・利用者の思い・暮らし方の意向・生き活きと自分らしく生活できる為に、生活歴・習慣等の情報を収集する。それに基づいての思いや意向を引き出すケア  
(日常の会話から引き出す工夫、私の希望用紙への記入、御家族との関わりを深める、思いを言いやすい環境づくり)